

# KEYWARE TIMES

## 株主通信 Vol.39

第61期 中間事業報告  
2025年4月1日～2025年9月30日

### 特集 キーウェアグループの 人的資本経営



IT can create it.

キーウェアソリューションズ株式会社  
東証スタンダード市場 3799



## ■インターネットIR情報

当社は、株主・投資家の皆さんにタイムリーでわかりやすい情報発信を目指し、ホームページの充実をはかるなど、IR活動の向上に取り組んでいます。

キーウェア IR 検索 <https://www.keyware.co.jp/ir/>

## ■IR情報



1 個人投資家の皆さんへ  
より深く当社グループをご理解いただくために個人投資家の皆さんへ向けた情報を発信しております。

2 決算説明（動画配信）  
決算説明の動画を資料とともに配信しております。業績報告や今後の戦略などについてご説明しております。

キーウェアソリューションズ株式会社

〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18

経営企画部 広報IR室

<https://www.keyware.co.jp>



※掲載されている会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

# — トップメッセージ —

事業基盤の強化と新たな価値創出により、中期経営計画「Vision2026」の達成を目指してまいります。

代表取締役社長

三 田 昌 三 ひ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループは、5ヵ年中期経営計画「Vision2026」に基づき、「基盤事業の質的転換」「プライムビジネス<sup>\*1</sup>の拡大」「新領域へのチャレンジ」を推進しております。4年目となる2026年3月期は、これまでの成果を基に、事業基盤の強化と持続的な成長に向けた取り組みを一層推進しております。

「基盤事業の質的転換」に向けては、プロダクトやクラウドサービスなどの活用を拡大し、開発効率と収益性の向上を進めております。あわせて、資本業務提携先である3社<sup>\*2</sup>との連携を一層推進するとともに、請負案件の拡大や不採算案件の抑制に引き続き取り組んでおります。また、医療ソリューション事業においては、臨床検査システム「Medlas-Fit」をリニューアルするなど、パッケージソリューションの強化を推進しました。「プライムビジネ

スの拡大」に向けては、SAP、BizJ、IFSといったERPパッケージを活用した基幹システム刷新の提案活動を積極的に推進したほか、ERPソリューションの競争力向上を図るべく、BizJを活用した自社開発テンプレートの新バージョンの提供に向けた開発に取り組んでおります。また、クラウド移行支援や、システム開発からインフラ構築までを含む一貫したソリューションの提案を通じて、顧客との新たな接点の創出と高付加価値案件の獲得に取り組んでおります。さらに、2025年9月に株式会社岩手銀行との資本業務提携を締結いたしました。これにより、地域DX推進に向けた協業関係を深め、東北地域における営業基盤とソリューション提供力の強化に取り組んでおります。

「新領域へのチャレンジ」に向けては、農業ICTやサイバーセキュリティ、デジタル金融などの成長分野における取り組みを進めており、新たな価値の創出と事業領域

の拡大を図っております。

こうした取り組みの結果、当社グループの当中間連結会計期間の受注高は10,518百万円（前年同期比569百万円増、5.7%増）、売上高は10,721百万円（同809百万円増、8.2%増）、営業利益は300百万円（同253百万円増、534.8%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は224百万円（同29百万円増、15.2%増）となりました。

当社グループでは、株主の皆さまへの利益還元を経営上の重要課題の一つとして位置づけております。本年7月には、配当方針を年1回（期末）から年2回（中

間・期末）へと変更し、当中間期に配当を実施いたしました。今後も、株主の皆さまへの適切な還元に努め、長期的な信頼関係の構築を目指してまいります。

当社グループは引き続き、事業基盤の強化と新たな価値創出を着実に進め、中期経営計画「Vision2026」の達成を目指してまいります。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

\*1 当社グループでは、お客さまと直接契約を結びサービスやソリューションを提供する事業を「プライムビジネス」と称しております。

\*2 株式会社J.R東日本情報システム、兼松エレクトロニクス株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社

## 連結業績ハイライト (単位:百万円、単位未満切り捨て)



\*親会社株主に帰属する中間(当期)純利益を記載しています。

► 連結業績に関して、より詳細な情報を決算説明動画で配信しています。裏表紙に記載のQRコードからご覧ください。

## 社員の成長と挑戦を支え、 企業価値の向上を実現

キーウェアグループは、人材を重要な資本と捉え、人的資本経営の推進を通じて持続的な企業価値の向上に取り組んでいます。その背景や具体的な取り組み、そして人的資本経営がもたらす当社グループの変化や成長について聞きました。



### Q. 人的資本経営に取り組む背景を教えてください。



**小川** 当社は創業以来、「人」を最大の経営資源と位置づけ、社員の成長が持続的な価値創造を支える原動力であると考えてきました。社員が安心して力を発揮できる環境づくりや、仕事と生活の調和を支える制度整備など、人を中心とした経営を実践しています。

近年、少子高齢化の進行やDX・AIの急速な発展により、企業の競争力は設備や資金よりも人の知恵や想像力に依存する時代になっています。こうした変化を踏まえ、当社は人材を「未来への投資」と捉え、社員の成長と挑戦を支える取り組みを通じて、「人を活かす経営」をさらに発展させています。

### Q. 直近ではどのような施策を行っていますか？

**真崎** まず、会社と社員の関係性や働きがいを客観的に把握することが重要だと考え、2023年から年1回の

エンゲージメント調査を実施しています。調査結果をもとに重要な課題を特定し、人的資本経営を進める上で、会社と社員が理念を共有することの重要性が改めて明らかになりました。

こうした課題認識を踏まえ、2025年に新たにパーパス(存在意義)※を策定しました。あわせて、これまで掲げていた行動指針をパーパスに基づいて再構築し、4つのキーワードから成る「バリュー」として定めています。これにより、社員一人ひとりが会社の目指す方向をより明確に理解し、自らの行動と結びつけられる基盤を整えました。

**秋山** 社員一人ひとりの自律的な成長を後押しするため、2025年から2つの新たな施策を導入しました。

1つ目は、企業内大学「キーウェアアカデミー」です。社員がキャリア形成に必要なスキルを計画的に習得できるよう、自らの意思でカリキュラムを選択するプログラムで、勤務時間内に受講できます。社員の関心も高く、想定以上のエントリーがありました。



2つ目は、新入社員向けの育成施策の拡充です。当社は從来から、入社初期を将来の成長を支える重要な期間と位置づけ、おおむね半年間にわたる研修を実施しています。この期間に、考え方や前に踏み出す力など、実践的な社会人基礎力を育むため、AIメンターを活用した次世代型育成プログラムを導入しました。AIメンターとの対話を通じて、自らの課題や気づきを言語化し、日々のPDCAサイクルを自律的に回す力を高めています。

### Q. 社内の変化を感じていますか？

**真崎** パーパスとバリューを策定した効果として、日々の業務や社内イベントなどで、社員同士の会話の中にバリューで掲げた4つのキーワードを使用する機会が増えてきましたように感じます。こうした意識の共有が、今後の行動変化へつながることを期待しています。

**秋山** 定量的には、全社イベントへの参加率や満足度、エンゲージメント調査のスコアがいずれも上昇傾向にあります。定性的には、教育・研修制度を通じて、社員が自らの成長を意識し、前向きに行動する姿勢が広がっています。

**小川** 当社グループは、創業者の「教育は社会を変革する力である」という理念を原点としています。近年はその精神が改めて社内に浸透し、社員の成長を支える取

※キーウェアグループのパーパス:「確かな技術と想像力で未来の扉をひらく」  
当社グループが社会に存在する意義を示すものとして2025年に策定。行動指針となる4つのバリュー「Challenge」「Enjoy」「Teamwork」「Integrity」を定めています。

り組みが一層活発になっていると感じます。

### Q. 企業価値の向上をどのように実現していきますか？

**真崎** AIの活用が当たり前になる社会では、AIにはできない人の仕事の価値や、人ならではの魅力がより重要になります。社員一人ひとりが持つ想像力やコミュニケーション力といった人としての強みを高め、それを会社として支援していくことが、最終的に新たな価値創出や企業の持続的成長につながると考えています。



**秋山** 人的資本経営の推進は、AI時代に対応するだけでなく、社員の強みを生かす新たなカルチャーを育てる取り組みもあります。システムに例えればOSのバージョンアップのように、組織全体の価値観や働き方を根本から刷新するものです。この変革を通じて、社員がいきいきと働ける環境づくりが進み、組織の活力と競争力を高め、企業価値の向上につながると考えています。

### Q. 今後の展望を聞かせてください。

**小川** 今後も、人的資本経営を一層深化させ、社員と組織がともに成長し続ける企業文化を確立していきます。人の力を起点とした新たな価値創出を進め、社会と未来に貢献する企業として、持続的な成長を実現してまいります。

# — Close Up キーウェア

キーウェアグループのビジネス展開や取り組みについてご紹介します

## Partnership

### ・岩手銀行と資本業務提携を締結

当社は株式会社岩手銀行と資本業務提携契約を締結し、地元企業や地方公共団体のIT・デジタル化支援の推進に加え、地域DXを担う協力体制および人材基盤の強化に取り組みます。岩手銀行とは、2024年に地域DX推進の連携協定を締結し、協業を進めてまいりました。今回の資本業務提携により、その連携をさらに強固なものとし、地域におけるDX推進を一層加速させてまいります。

## Products & Solutions

### ・医療機関向け臨床検査システム「Medlas-Fit」をリニューアル

当社は、医療機関向けソリューション「Medlas（メドラス）」シリーズの一つである臨床検査システム「Medlas-Fit」をリニューアルし、新バージョンの提供を開始しました。今回のリニューアルでは、操作性と視認性を高めるとともに、医療情報の安全性を実現しました。医療機関の業務効率化やデジタル化需要が高まるなか、当社は医療分野におけるソリューション提供を通じて、現場の課題解決を支援してまいります。



## Brand-New Business

### ・キュウリの次世代型生産事業に参画

連結子会社の株式会社オーガルは、合同会社継（宮崎県）への出資を通じて、キュウリの安定した質・量の供給を目的とした次世代型生産事業に参画いたしました。2025年6月、1.4ha規模の高度施設園芸設備の建設に着工し、2026年6月の稼働を目指します。オーガルはITコンサルティング、ITシステム構築、データ分析、運用支援などを通じて次世代型生産の実現を推進してまいります。

## Partner Award

### ・NTTデータ・ビズインテグラルから「Special Award」を受賞

当社は、株式会社NTTデータ・ビズインテグラル主催の「Biz Partner AWARD 2025」で「Special Award」を受賞しました。当社は、業種ごとの業務特性に対応したテンプレートを開発・保有し、スムーズな基幹システム導入を実現しています。こうした強みを活かしBiz事業拡大に寄与した点が評価されました。今後もパートナー企業との連携を深め、お客様の価値創出に貢献してまいります。



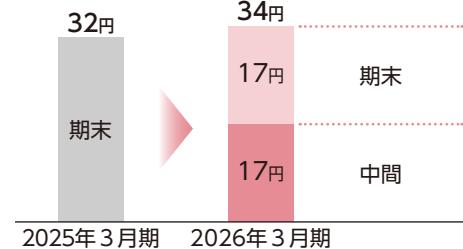
NTTデータ・ビズインテグラル  
代表取締役社長 田中 宏治様（左）、  
当社取締役 執行役員 末綱 孜也（右）

# — キーウェアの扉 皆さまとのコミュニケーションページ

## 配当方針の変更

### ・中間配当を実施

株主の皆さまへの利益還元の機会を充実させるため、2026年3月期より、中間配当と期末配当の年2回の配当を実施することといたしました。



## 株主優待制度

株主の皆さまに当社株式の魅力をより感じていただき、長期的に保有していただくことを目的として株主優待制度を実施しています。

対象となる  
株主さま

基準日（9月末日及び3月末日）における当社株主名簿に記載または記録された3単元（300株）以上を6ヶ月以上継続して保有されている株主さま

保有株式数

3単元  
(300株) 以上

QUOカード  
6,000円

株主  
優待制度の  
内容

年間株主優待	3単元 (300株) 以上	QUOカード 6,000円
内訳	毎年 3月末日 毎年 9月末日	3単元 (300株) 以上
		QUOカード 3,000円

毎年3月末日、9月末日を基準日として、権利確定日から3ヶ月以内を目処に発送予定

## サステナビリティ活動

### 古本回収を通じて被災地を支援

当社は、不要な本などを回収し買取相当額を寄付する「チャリボン」を活用し、能登半島地震の被災地支援に取り組みました。社員から本、DVD、CD、ゲームソフトやゲーム機など計1,041点を集め、2024年11月から2025年10月にかけて8回に分けて送付しました。寄付金は日本赤十字社を通じて被災地支援に役立てられています。今後も持続可能な社会の実現に貢献し、ESG経営を推進してまいります。



## SUSTAINABILITY REPORT

当社では、毎年「サステナビリティレポート」を発行しております。  
当社ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。  
▶ <https://www.keyware.co.jp/about/csr/report-index.html>



# 中間連結財務諸表(要約)

単位：百万円、単位未満切り捨て

## 中間連結貸借対照表

	前 期 2025年 3月31日現在	当 中間期 2025年 9月30日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	8,558	8,461
固定資産	2,220	2,108
有形固定資産	389	374
無形固定資産	354	328
投資その他の資産	1,476	1,405
資産合計	10,779	10,569
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	2,854	2,953
固定負債	355	70
負債合計	3,209	3,024
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	7,470	7,438
その他の包括利益累計額	99	107
純資産合計	7,569	7,545
負債純資産合計	10,779	10,569

### POINT 資産の部

現金及び預金等の増加はありましたが、売掛金、契約資産、電子記録債権、繰延税金資産等の減少により、前期末比209百万円減少の10,569百万円となりました。

### POINT 負債の部

契約負債等の増加はありましたが、買掛金、賞与引当金等の減少により、前期末比185百万円減少の3,024百万円となりました。

### POINT 純資産の部

利益剰余金の減少等により、前期末比23百万円減少の7,545百万円となりました。その結果、当第2四半期末の自己資本比率は、71.4%となりました。

## 中間連結損益計算書

	前中間期 2024年4月1日から 2024年9月30日まで	当 中間期 2025年4月1日から 2025年9月30日まで
売上高	9,911	10,721
売上原価	8,306	8,705
売上総利益	1,605	2,015
販売費及び一般管理費	1,558	1,715
営業利益	47	300
経常利益	258	350
親会社株主に帰属する中間純利益	194	224

### POINT 売上高

官庁系、運輸系、医療系、IoT系の案件拡大や前年度受注した公共系の開発が順調に推移したことにより、前年同期比809百万円増加の10,721百万円となりました。

### POINT 営業利益

教育研修費などを含む人材投資にかかる費用の増加はありましたが、売上高の増加、開発生産性の向上による利益率の改善により前年同期比253百万円増加の300百万円となりました。

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

	前中間期 2024年4月1日から 2024年9月30日まで	当 中間期 2025年4月1日から 2025年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△280	920
投資活動によるキャッシュ・フロー	△168	△60
財務活動によるキャッシュ・フロー	△165	△266
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△615	593
現金及び現金同等物の期首残高	1,964	1,863
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,349	2,456

### POINT 連結キャッシュ・フロー

営業CFは、税金等調整前中間純利益の計上、売上債権の減少などにより920百万円のプラス。投資CFは、固定資産の取得などにより60百万円のマイナス。財務CFは、配当金の支払により266百万円のマイナスとなりました。その結果、現金及び現金同等物の中間期末の残高は、前期末比593百万円増加の2,456百万円となりました。

# — 株式情報 (2025年9月30日現在)

## 株式情報

● 発行可能株式総数 36,440,000株

● 発行済株式総数 9,110,000株

● 株主数 7,444名

### ● 主要法人株主

株式会社 H B A

株式会社 J R 東日本情報システム

兼松エレクトロニクス株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

住友生命保険相互会社

株式会社三井住友銀行

### 株式に関するお手続き

■ 住所変更などのお届け出およびご照会について  
お取引の証券会社にお問い合わせください。証券会社の口座のご利用がない株主さまは右記の三井住友信託銀行の電話照会先にお問い合わせください。

### ■ 未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行にお申し出ください。

## 株主メモ

事業年度 每年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 每年6月開催

基準日 定時株主総会、期末配当金 每年3月31日  
中間配当金 每年9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関  
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 事務取扱場所  
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

【郵便物送付先】 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

【電話照会先】 (フリーダイヤル)0120-782-031

【インターネット ホームページ URL】 <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

公告掲載方法 電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場

# — 会社概要 (2025年9月30日現在)

## 会社概要

商 号 キーウェアソリューションズ株式会社

所在地 〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18

創 立 1965年5月

資本金 17億37百万円

売 上 211億1百万円(2025年3月期・連結)

従業員数 1,289名(2025年3月31日現在・連結)

事業内容 システム開発事業および総合ITサービス事業

品質マネジメントシステム登録事業者

プライバシーマーク使用許諾事業者

情報セキュリティマネジメントシステム登録事業者

環境マネジメントシステム登録事業者

子育てサポート企業 くるみん認定

健康経営優良法人認定制度(大規模法人部門)認定

取得認証・認定

## 役員

### 取締役・監査役

代表取締役社長 み た まさ ひろ 三 田 昌 弘

取 締 役 お がわ とし かず 小 川 俊 一

取 締 役 さい とう いく お 齊 藤 郁 夫

取 締 役 すえ つな たく や 末 綱 琢 也

取 締 役 わき や まさる 脇 谷 勝

取 締 役 の だ ま き こ 野 田 万起子

取 締 役 ステファン グスタフソン

取 締 役 たて だ あ ゆ み 館 田 あゆみ

監 査 役 う し ろ ね けい じ 後 根 桂 二

監 査 役 さ とう あ つ し 佐 藤 敦

監 査 役 た き た ひ ろ し 潤 田 博

監 査 役 お お た けん い ち 大 田 研 一

※取締役 野田 万起子、ステファン グスタフソンおよび館田 あゆみは、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

※監査役 潤田 博および大田 研一は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

※取締役 野田 万起子、ステファン グスタフソンおよび監査役 潤田 博、大田 研一は、東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員です。

### 執行役員

執行役員社長 み た まさ ひろ 三 田 昌 弘

執行役員専務 お がわ とし かず 小 川 俊 一

執行役員常務 た の みのる 田 野 穂

執行役員常務 さい とう いく お 齊 藤 郁 夫

執行役員 加 とう 謙 徹 郎

執行役員 すえ つな たく や 末 綱 琢 也

執行役員 わき や まさる 脇 谷 勝

執行役員 こ み や ま し ょ う じ ろ う 入 山 昌 二 郎

執行役員 や ま も り あ つ し 山 森 淳

執行役員 あ き や ま よ し 好 成 秋 山 喜 成